

# 農事組合法人ファームあまだ 代表理事 福井 勝美（山口県山口市）

| 品 種        | 作付面積   | 単 収       | 地域の単収との差（地域の平均単収）     |
|------------|--------|-----------|-----------------------|
| みなちから、オオナリ | 13.5ha | 695kg/10a | 169kg/10a（526kg/10a）※ |

※ 作柄調整後の地域の平均単収

## 経営概況

- 平成22年1月法人設立
- 理事5名、組合員7名、パート数名、福祉施設より17名（作業委託）

## 作付品目

- 主食用米 20.8ha  
（日本晴、ひとめぼれ、きぬむすめ、恋の予感）
- 飼料用米 13.5ha      ○ 小麦 11.9ha
- 大豆 8.0ha      ○ キャベツ 0.6ha

## 取組のきっかけ

- 実需者である秋川牧園（以下「実需者」）と飼料用米生産者の耕畜連携（資源循環型サイクル）を基本とした取組に共感するとともに、稲作作業の省力化、経営の安定化を図るため、令和元年産から飼料用米に取り組む。

## 取組概要

- 密播（乾籾250g/箱）で育苗するとともに、50株/坪の疎植とすることで苗箱数を12枚/10a程度に抑えコスト低減を図っている。
- 11月～12月に稲わらのすき込みを行うが、腐食化を促進するため、ディスクロータリーで天地返しを行い、土壌を乾土化させる耕運を行っている。また、実需者から提供を受けた鶏ふん堆肥を自社倉庫で一定期間保管後、春の耕運前に散布。基肥は、田植時に一発肥料「アシストコート0-1-0」を田植同時側条施肥。
- 病虫害防除は、育苗箱施用のほか、出穂前に「スタークルメイト10」（800cc/10a 8倍）をヘリで、「モンガリット」（1kg/10a）をドローンで散布。
- 雑草防除は、除草剤「ラオウ」（1kg/10a）を田植同時散布することにより省力化を図っている。
- 乾燥・調製は、自らの所有施設で行っており、刈取りを遅らせ立毛乾燥することによりコスト低減を図っている。
- 農作業機械に「GPS直進アシスト」を導入し、作業員の安全・疲労低減を図っている。
- 栽培期間中、実需者主催の全生産者現地巡回視察（年2回）を活用し、多収穫、コスト低減等の生産技術の向上を図っている。

